

家庭・教育・福祉の
連携から見た 地域づくり

実践紹介：トライアングルプロジェクトフォーラム



- 目的**
- ・学校と放課後等デイサービス事業所との連携を促進し、支援の充実を図る
 - ・コーディネーターを軸とし、市内外一般校の教職員への理解啓発を促す（相互理解）
 - ・保護者の安心へつながる学校づくり
- 実践**
- ・学校、事業所、保護者へのアンケートを実施し、必要な取り組みや体制等を探った
 - ・自立活動の公開授業を行った
 - ・フォーラムにおいて、3分科会（家庭・教育・福祉）での実践発表、討議を行った

家庭・教育・福祉の連携による、一貫した支援体制の構築を目指す

実践の成果と課題

	成果	課題
学校と福祉の連携	・学校、事業所間の理解が進んだ ・事業所とのスムーズな引き継ぎや、緊急時の連携体制確立のための下地作り ・ケース会議等の情報共有の場ができた ・学校と福祉機関の連携についての重要性について理解が深まった	・連携のための時間の確保 ・災害時等の対応マニュアル作成 ・保護者同意の確認方法や手続きの確立
コーディネーターを軸とした相互理解	・コーディネーター同士の繋がり、連携が深まった（研修会の開催、巡回相談時や就学指導時の情報交換、協議会） ・コーディネーターによる啓発、研修会参加の呼びかけ等により、職員間での理解が促進された	・エリアコーディネーターの役割が見えにくい ・エリアコーディネーターとの更なる連携の必要性
保護者の安心	・相談窓口の設置→市障害者相談（2月に1回）をはじめ、地域生活相談支援センターが各機関との橋渡しをしてくれる ・支援学校保護者を対象とした相談会開催 ・自立と社会参加を見据えた縦の連携への理解	・心（自尊心、諦めない気持ち）の育成をするための支援 ・家庭からの発信をしやすい工夫

実践のなかで学んだこと

障がいのある子が地域社会で自立していくために



兵庫県特別支援教育第三次推進計画より



- ・学校だけではできないことでも、いかに地域や福祉とつながるかで、子ども自身の選択や世界が広がるのか、という可能性を見出した。
- ・性質が違う場だからこそ、相互理解が必要。
→現在では本校のオープンスクールや研修会にも多くの放デイ支援員や福祉関係者が訪れる。学校について理解をしてもらう機会、場を提供することの重要性。
- ・保護者が安心できる学校づくり→多方面の視点を持ち、横の連携を強化することで、安心できる地域づくりを

実践の今後に向けて

- ・エリアコーディネーターを巻き込んだフォーラムを
まだエリアコーディネーターの存在が十分に知られていなかったり、役割や強みを生かせる部分が少なかったりするのが現状。センター的機能をもつ特別支援学校を中心として、エリアコーディネーターと更に連携し充実した研修会をもつ、エリアコーディネーターとしての視点から家庭・福祉・教育への助言をもらう等、場を設定していく必要がある。
- ・フォーラムでの調査と実態から、よりよい具体策を実現する。
- ・家庭・福祉・教育の連携を長期的に継続させ、成果と課題を見極めながら具体策を出し、より良い支援ができるようにしていく。

地域支援づくりへの提案

- ①いくつもある屋のうち、一番叩きやすい屋を叩けるように…
1人で悩みを抱え込んでしまう保護者の為、様々な窓口を用意する→それぞれが連携しており、万全のサポートができる体制が地域として組んである。エリアコーディネーターにも助言がもらえるような場を設定する。
- ②コーディネーター同士の縦の連携の強化
学校現場での悩みを相談、サポート、助言してもらえるよう、素早い対応ができるようにする。
エリアコーディネーターと市内コーディネーター会議の開催
- ③学校現場の福祉事業所訪問
福祉から学校への訪問は増加しているが、逆はまだ少ない。現在の長期休み中の巡回に加えて、事業所側の話もきけるような場の設定や訪問時間の延長、福祉事業所研修、ケース会議の参加（相互に）が必要